

石川県の年齢別推計人口 ～令和6年10月1日現在～

石川県総務部統計情報室
 人口労働グループ 太田、熊谷
 TEL (076)225-1344 (直通)
 内線 3759

令和6年10月1日現在の石川県の年齢別推計人口について取りまとめました。
 概要は以下のとおりです。

- 注1 この結果は、外国人を含む。
- 2 総人口には年齢不詳を含むが、年齢別人口割合は分母から年齢不詳を除いて算出している。
- 3 数字の単位未満は四捨五入を原則としたので、合計の数字と内訳の計が一致しない場合がある。

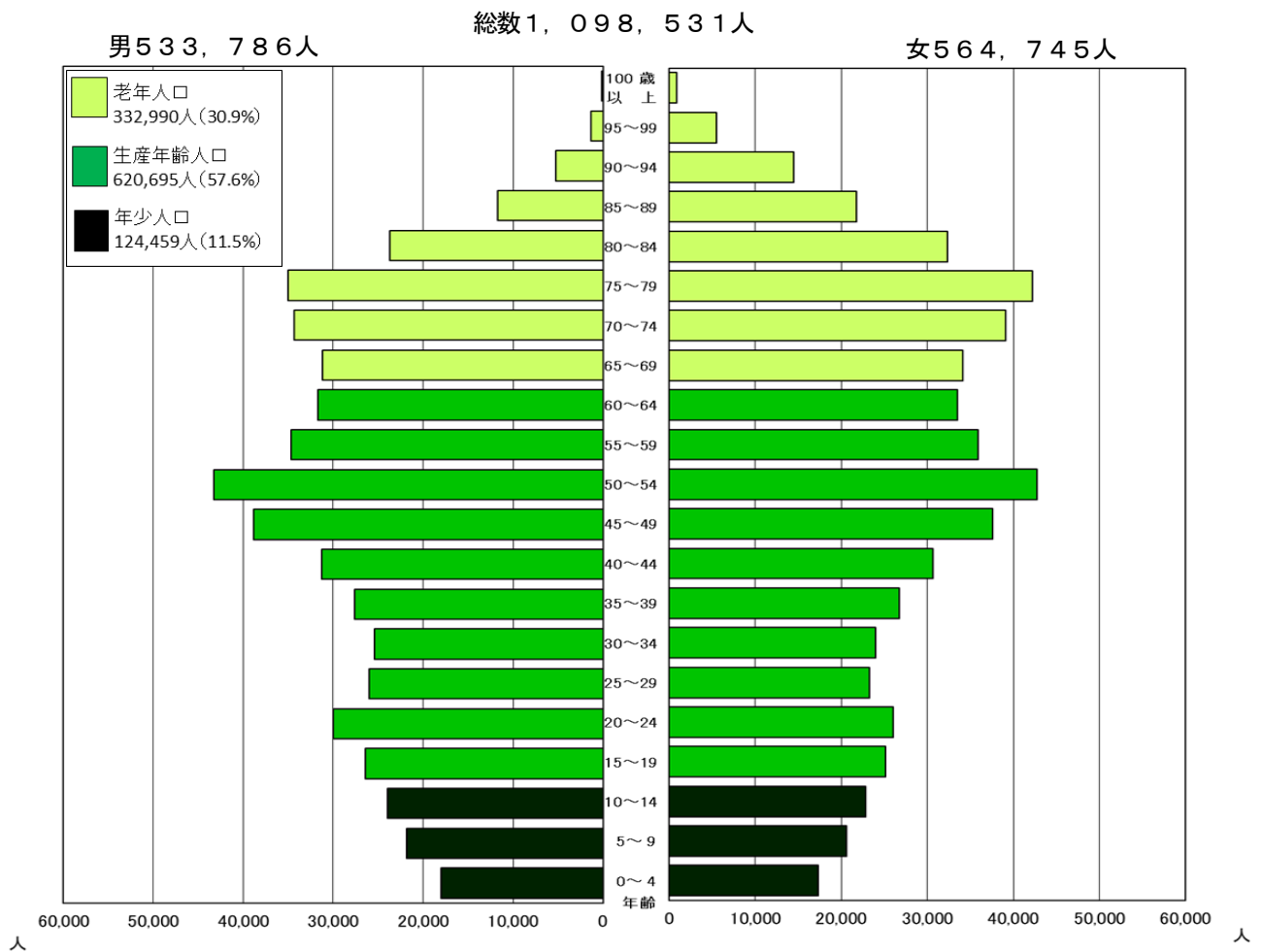
1 年齢（5歳階級）別人口

最も多いのは、50～54歳の85,999人

5歳階級別人口では、50～54歳が85,999人と最も多くなっている。
 次いで多いのは、75～79歳の77,295人、その次が45～49歳の76,372人となっている。

【図1、参考表1】

図1 年齢(5歳階級)・男女別人口(令和6年10月1日現在推計)



注1 75～79歳には、第1次ベビーブーム（昭和22～24年生まれ）の人口が含まれている。
 2 50～54歳には、第2次ベビーブーム（昭和46～49年生まれ）の人口が含まれている。

2 年齢（3区分）別人口

年少人口、生産年齢人口及び老年人口の全てにおいて減少

		割合	前年比
年少人口（0～14歳）	124,459人	（11.5%）	△3,718人（0.3ポイント低下）
生産年齢人口（15～64歳）	620,695人	（57.6%）	△6,191人（同率）
老年人口（65歳以上）	332,990人	（30.9%）	△1,134人（0.2ポイント上昇）

（1）石川県の総人口

年齢（3区分）別人口では、年少人口（0～14歳）が124,459人、生産年齢人口（15～64歳）が620,695人、老年人口（65歳以上）が332,990人となっている。

総人口に占める割合をみると、年少人口は11.5%で過去最低、老年人口は30.9%で過去最高となっている。前年に比べ、年少人口は3,718人の減少（0.3ポイントの低下）、生産年齢人口は6,191人の減少（同率）、老年人口は1,134人の減少（0.2ポイントの上昇）となっている。

また、老年人口のうち65歳から74歳までは138,669人（総人口に占める割合12.9%）、75歳以上は194,321人（同18.0%）であり、それぞれの老年人口に占める割合は41.6%、58.4%となっている。

【図2-1、図2-2、参考表2】

図2-1 年齢(3区分)別人口及び割合(令和5年・令和6年)

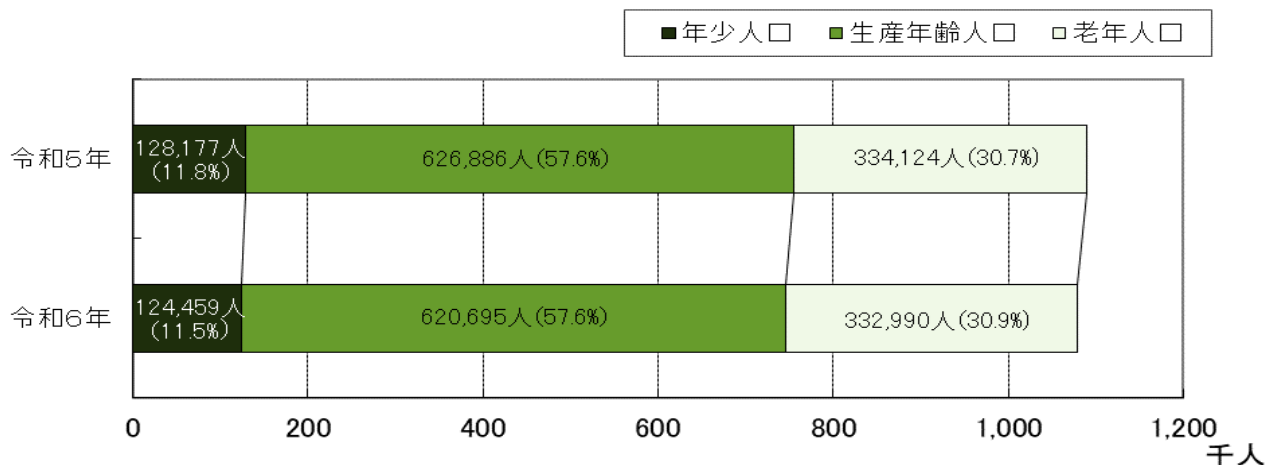
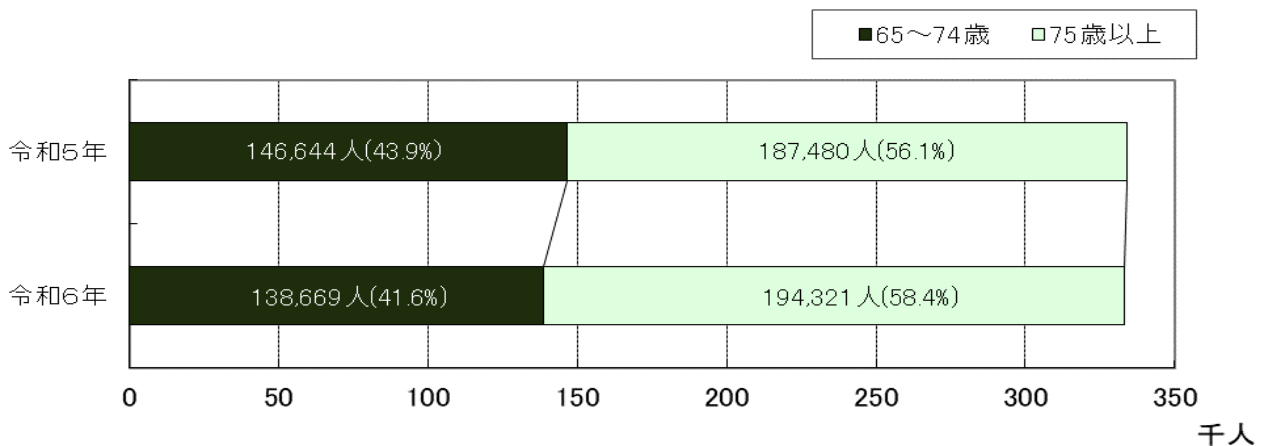


図2-2 老年人口及び割合(令和5年・令和6年)



(2) 市町別人口

市町別に総人口に占める割合をみると、年少人口では川北町の14.6%、生産年齢人口では野々市市の65.4%、老年人口では珠洲市の54.1%が最も高くなっている。

【表1-1、参考表2】

表1-1 年齢(3区分)・市町別人口割合の順位(令和6年10月1日現在)

順位	年少人口 (0~14歳)		生産年齢人口 (15~64歳)		老年人口 (65歳以上)	
	市 町 名	割合 (%)	市 町 名	割合 (%)	市 町 名	割合 (%)
1	川 北 町	14.6	野 々 市 市	65.4	珠 洲 市	54.1
2	か ほ く 市	14.0	津 幡 町	60.8	能 登 町	53.9
3	野 々 市 市	13.8	川 北 町	60.6	穴 水 町	51.8
4	白 山 市	13.2	金 沢 市	60.5	輪 島 市	51.2
5	津 幡 町	13.1	能 美 市	60.1	志 賀 町	48.1
15	志 賀 町	7.5	志 賀 町	44.4	金 沢 市	28.0
16	能 登 町	6.7	輪 島 市	42.3	能 美 市	26.9
17	珠 洲 市	6.6	穴 水 町	41.9	津 幡 町	26.1
18	輪 島 市	6.6	能 登 町	39.4	川 北 町	24.8
19	穴 水 町	6.3	珠 洲 市	39.3	野 々 市 市	20.8

(3) 対前年増減率

県全体の対前年増減率をみると、年少人口が2.9%低下、生産年齢人口が1.0%低下、老年人口が0.3%低下している。

市町別に対前年増減率をみると、年少人口ではかほく市の0.8%、生産年齢人口では野々市市の1.0%、老年人口では野々市市の1.6%が最も高くなっている。

【表1-2】

表1-2 年齢(3区分)・市町別人口対前年増減率の順位(令和6年10月1日現在)

順位	年少人口 (0~14歳)		生産年齢人口 (15~64歳)		老年人口 (65歳以上)	
	市 町 名	増減率 (%)	市 町 名	増減率 (%)	市 町 名	増減率 (%)
1	か ほ く 市	0.8	野 々 市 市	1.0	野 々 市 市	1.6
2	津 幡 町	△ 0.8	か ほ く 市	0.4	津 幡 町	1.5
3	白 山 市	△ 1.3	能 美 市	0.1	川 北 町	1.5
4	能 美 市	△ 1.9	白 山 市	△ 0.3	白 山 市	0.6
5	野 々 市 市	△ 2.0	金 沢 市	△ 0.4	内 灘 町	0.6
15	能 登 町	△ 9.5	七 尾 市	△ 4.7	志 賀 町	△ 2.1
16	志 賀 町	△ 9.6	穴 水 町	△ 7.7	能 登 町	△ 3.1
17	穴 水 町	△ 13.2	能 登 町	△ 7.8	穴 水 町	△ 3.8
18	珠 洲 市	△ 13.2	珠 洲 市	△ 10.4	輪 島 市	△ 5.4
19	輪 島 市	△ 14.3	輪 島 市	△ 13.0	珠 洲 市	△ 7.7

注 増減率 $\frac{\text{令和6年各年齢区分別人口} - \text{令和5年各年齢区分別人口}}{\text{令和5年各年齢区分別人口}} \times 100$

(4) 10年間（平成26年～令和6年）の推移

総人口に占める割合について10年間の推移をみると、年少人口は、県全体では平成26年の13.2%から令和6年の11.5%へと1.7ポイント低下している。市町別にみると、かほく市以外の全ての市町で低下しており、低下幅が最も大きいのは川北町の5.9ポイントとなっている。

生産年齢人口は、県全体ではこの10年間で59.6%から57.6%へと2.0ポイント低下している。市町別にみると、川北町以外の全ての市町で低下しており、低下幅が最も大きいのは、能登町の6.8ポイントとなっている。

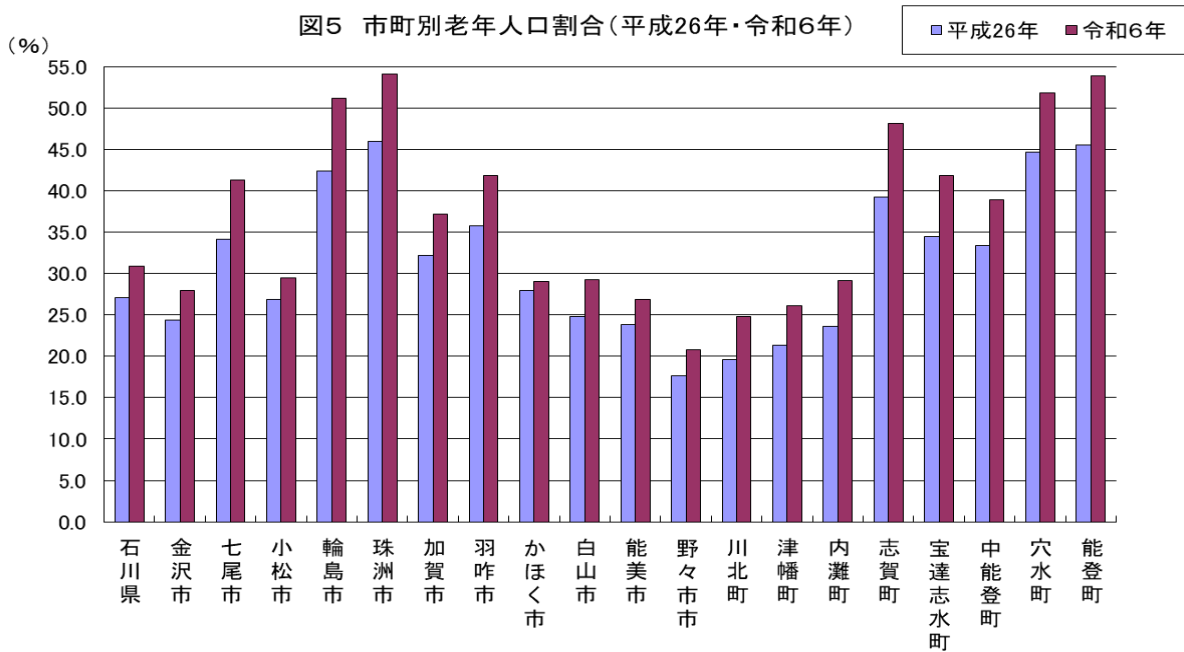
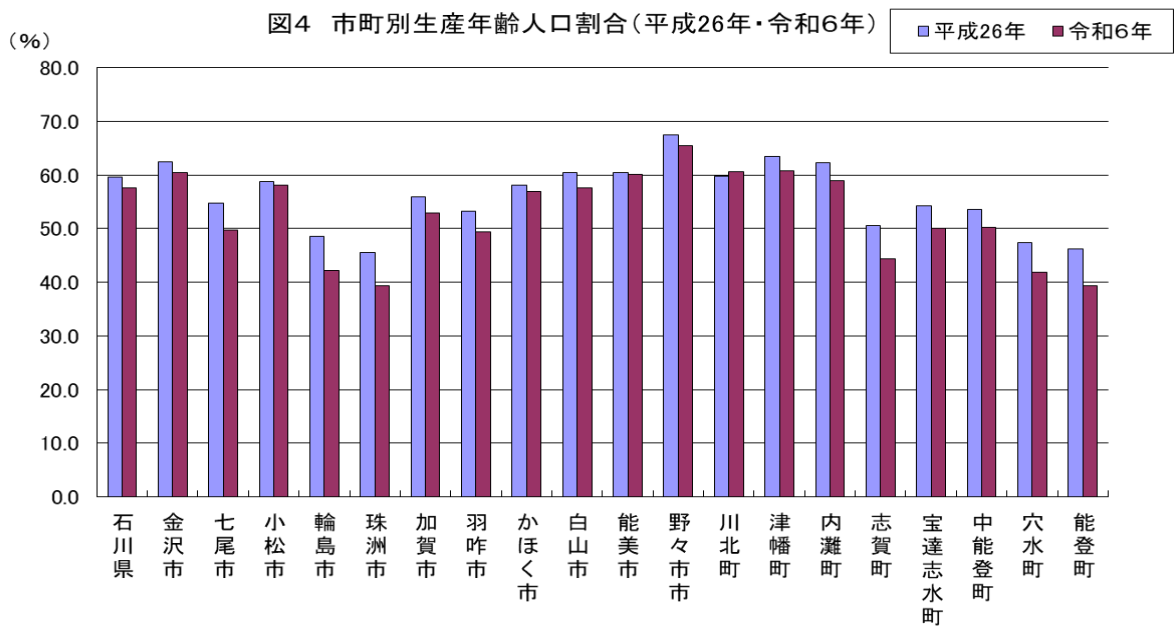
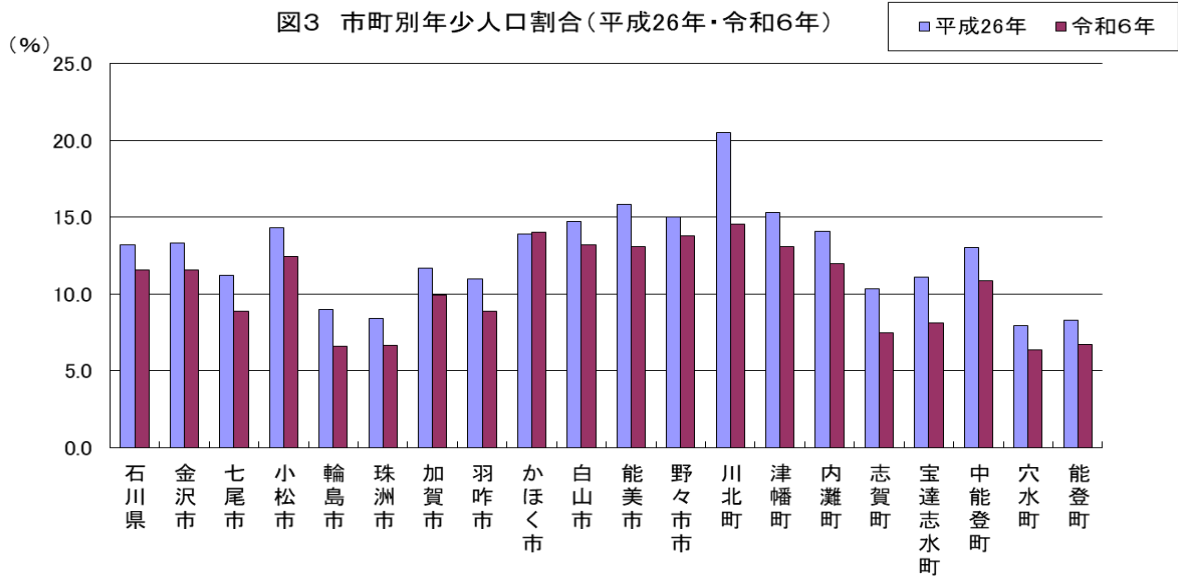
一方、老年人口は、県全体ではこの10年間で27.1%から30.9%へと3.8ポイント上昇している。市町別にみると、全ての市町で上昇しており、上昇幅が最も大きいのは、志賀町の8.9ポイントとなっている。

【表2、図3～5】

表2 年齢(3区分)・市町別人口割合の推移(平成26年・令和6年)

市町名	年少人口			生産年齢人口			老年人口		
	平成26年 (%)	令和6年 (%)	割合の 増減 (ポイント)	平成26年 (%)	令和6年 (%)	割合の 増減 (ポイント)	平成26年 (%)	令和6年 (%)	割合の 増減 (ポイント)
石川県	13.2	11.5	△ 1.7	59.6	57.6	△ 2.0	27.1	30.9	3.8
金沢市	13.3	11.5	△ 1.8	62.4	60.5	△ 1.9	24.4	28.0	3.6
七尾市	11.2	8.9	△ 2.3	54.7	49.8	△ 4.9	34.1	41.3	7.2
小松市	14.3	12.4	△ 1.9	58.7	58.1	△ 0.6	26.9	29.5	2.6
輪島市	9.0	6.6	△ 2.4	48.6	42.3	△ 6.3	42.4	51.2	8.8
珠洲市	8.4	6.6	△ 1.8	45.6	39.3	△ 6.3	46.0	54.1	8.1
加賀市	11.7	9.9	△ 1.8	56.0	52.9	△ 3.1	32.2	37.1	4.9
羽咋市	11.0	8.9	△ 2.1	53.2	49.3	△ 3.9	35.8	41.8	6.0
かほく市	13.9	14.0	0.1	58.1	57.0	△ 1.1	28.0	29.0	1.0
白山市	14.7	13.2	△ 1.5	60.5	57.5	△ 3.0	24.8	29.2	4.4
能美市	15.8	13.1	△ 2.7	60.4	60.1	△ 0.3	23.8	26.9	3.1
野々市市	15.0	13.8	△ 1.2	67.4	65.4	△ 2.0	17.7	20.8	3.1
川北町	20.5	14.6	△ 5.9	59.8	60.6	0.8	19.6	24.8	5.2
津幡町	15.3	13.1	△ 2.2	63.5	60.8	△ 2.7	21.3	26.1	4.8
内灘町	14.1	11.9	△ 2.2	62.3	58.9	△ 3.4	23.6	29.1	5.5
志賀町	10.3	7.5	△ 2.8	50.6	44.4	△ 6.2	39.2	48.1	8.9
宝達志水町	11.1	8.1	△ 3.0	54.3	50.0	△ 4.3	34.5	41.9	7.4
中能登町	13.0	10.9	△ 2.1	53.6	50.2	△ 3.4	33.4	38.9	5.5
穴水町	7.9	6.3	△ 1.6	47.3	41.9	△ 5.4	44.7	51.8	7.1
能登町	8.3	6.7	△ 1.6	46.2	39.4	△ 6.8	45.5	53.9	8.4

注 各年10月1日現在



3 人口動態

令和5年10月1日から令和6年9月30日までの1年間で、自然動態は出生者数6,300人、死亡者数15,108人で8,808人の減少だった。社会動態は県外からの転入者数23,851人、県外への転出者数26,086人で2,235人の減少だった。

【表3～5、参考表4】

表3 年次・要因別人口動態(平成26年～令和6年)

単位:人

年次	人口増減数	自然動態			社会動態(※)			国勢調査結果による補間補正数
		自然増減数	出生者数	死亡者数	社会増減数	県外からの転入者数	県外への転出者数	
平成26年	△ 3,243	△ 2,949	9,159	12,108	△ 616	21,588	22,204	322
27	△ 2,730	△ 3,205	9,263	12,468	153	22,345	22,192	322
28	△ 2,717	△ 3,278	9,052	12,330	88	23,110	23,022	473
29	△ 2,897	△ 3,858	8,773	12,631	487	23,717	23,230	474
30	△ 4,009	△ 4,257	8,485	12,742	△ 225	23,886	24,111	473
令和元年	△ 5,310	△ 4,766	8,048	12,814	△ 1,018	24,786	25,804	474
2	△ 6,549	△ 4,955	7,855	12,810	△ 2,067	21,755	23,822	473
3	△ 7,380	△ 5,791	7,404	13,195	△ 1,589	21,056	22,645	-
4	△ 7,319	△ 6,623	7,208	13,831	△ 696	23,573	24,269	-
5	△ 8,253	△ 7,963	7,013	14,976	△ 290	24,073	24,363	-
6	△ 11,043	△ 8,808	6,300	15,108	△ 2,235	23,851	26,086	-

注1 各年の人口増減数は、前年10月から当年9月までの自然動態、社会動態及び国勢調査結果による補間補正数の計である。
2 県外には国外・不詳を含む。

表4 市町別自然動態の順位(令和5年10月1日～令和6年9月30日)

順位	増加			減少				
	増加数(人)	増加率(%)		減少数(人)	減少率(%)			
1	野々市市	67	野々市市	0.12	金沢市	△ 2,706	珠洲市	△ 3.30
2					加賀市	△ 810	輪島市	△ 2.77
3					小松市	△ 775	穴水町	△ 2.73
4					七尾市	△ 768	能登町	△ 2.55
5					輪島市	△ 613	志賀町	△ 2.10

注 令和5年10月から令和6年9月までの1年間の計である。

表5 市町別社会動態の順位(令和5年10月1日～令和6年9月30日)

順位	増加			減少				
	増加数(人)	増加率(%)		減少数(人)	減少率(%)			
1	金沢市	748	かほく市	0.60	輪島市	△ 1,447	輪島市	△ 6.55
2	白山市	408	野々市市	0.55	七尾市	△ 933	珠洲市	△ 5.83
3	野々市市	320	白山市	0.37	珠洲市	△ 689	穴水町	△ 3.31
4	かほく市	212	能美市	0.30	能登町	△ 416	能登町	△ 2.89
5	能美市	143	津幡町	0.28	志賀町	△ 272	七尾市	△ 1.97

注 令和5年10月から令和6年9月までの1年間の計である。